

付録. 2		富岡多恵子についての文献目録		
年月	ジャンル	タイトル	筆者	出版社・雑誌
57/10	序文		小野十三郎	富岡多恵子『返禮』山河出版社
59/09	解説		長谷川龍生	富岡多恵子『カリスマのカシの木』飯塚書店
63/03	解説		鮎川信夫	『現代詩人全集 第10巻』角川書店
65/02		富岡多恵子論 虚空からたれさがっている言葉 = 孤独 詩集「女友達」をめぐって	高良留美子	現代詩手帖
65/11		ニューヨーク通信	池田満寿夫	美術手帖
67/07		富岡多恵子の詩 戦後詩への愛着5	清岡卓行	文学
67/10	書評	富岡多恵子詩集	高良留美子	現代詩手帖
67/11		詩と思想 田村隆一・富岡多恵子・石原慎太郎	飯島耕一	現代詩手帖
67/11	解説		天沢退二郎	『現代詩体系』思潮社
67/11		戦後詩概観	大岡信	『現代詩体系』思潮社
67/12		現代詩概観	大岡信	『現代詩体系』思潮社
67/12		富岡多恵子小論	前川知賢	原始林
67/?	書評	富岡多恵子著 ニホン・ニホン人	唐十郎	現代詩手帖
68/10		私の調書9 T・Tとの八年間	池田満寿夫	美術手帖
68/11		死の地平線へ 富岡多恵子の作品世界	八木忠栄	『現代詩文庫15 富岡多恵子』思潮社
68/11		富岡多恵子	森茉莉	『現代詩文庫15 富岡多恵子』思潮社
68/11		推薦文	粟津潔	『現代詩文庫15 富岡多恵子』思潮社
70/06		戦後詩のイメージ	入沢康夫	東京新聞 22日
71/01		ぼくの富岡多恵子	塚本晃生	新宿プレイマップ
71/12		富岡多恵子私論	おだのぶこ	私信あぼわー 誕生号
72/04		人物スポット 自作の詩の朗読で人気を呼ぶ詩人		週刊朝日 28日
72/04		富岡多恵子論 そして詩はどこに?	永坂田津子	文学者
72/05		人物交差点		中央公論
72/05	書評	「歌・言葉・日本人」		婦人公論
72/05	書評	「歌・言葉・日本人」草思社	大田克彦	ミュージック・マガジン
72/05		現代女流詩人論9 詩人の生き方、白石かずこと富岡多恵子	小川和佑	詩学
72/06	解説		ドゥガル ド・スター マー	スーザン・ソントグ(富岡多恵子訳)『キューバ・ポスター集』平凡社
72/07	書評	「仕かけのある静物」	寺田透・丸谷オー・田久保英夫	群像
72/10	書評	「窓の向うに動物が走る」	佐伯彰一・井上光晴	文学界
72/10	書評	「窓の向うに動物が走る」	秋山駿・上田三四二・松原新一	群像
72/10		富岡多恵子論	伊賀良一	時間
73/02		ヌードもあるドロン館 富岡多恵子さんの書斎		サンデー毎日 25日
73/03		富岡多恵子さんのプレイ	岩田宏	俳優座公演パンフレット
73/03		富岡多恵子の詩と戯曲	小野十三郎	俳優座公演パンフレット
73/03	連載	言語の中より言語の外へ 続富岡多恵子論(一)	永坂田津子	文学者
73/04		言語の中より言語の外へ 続富岡多恵子論(二)	永坂田津子	文学者
73/05		言語の中より言語の外へ 続富岡多恵子論(三)	永坂田津子	文学者
73/06		言語の中より言語の外へ 続富岡多恵子論(四)	永坂田津子	文学者
73/06	グラフィア	ちょっと休筆		文藝春秋 別冊

年月	ジャンル	タイトル	筆者	出版社・雑誌
73/07		「オンナの論理が世界を救う」富岡多恵子氏の痛烈なオトコ批判		週刊ポスト 13日
73/08	書評	散文の感触『仕かけのある静物』	佐伯彰一	海
73/08		詩人兼小説家 新種の私小説風 富岡多恵子	二役	週刊読書人 20日
73/10	書評	「地蔵和讃仕方咄」	佐々木基一・上田三四二・秋山駿	群像
73/11	グラフィ	現代の作家(91)		週刊小説 23日
73/11		歌と逆に歌に 富岡多恵子と小説	松原新一	現代詩手帖
74/02	書評	文体が喚起する想像力 富岡多恵子『植物祭』	三木卓	群像
74/02		『お多恵しぐれはとまらない』	新井清吉	自家出版
74/03	書評	「冥途の家族」	川村二郎・大岡信	文學界
74/05		人物スケッチ 富岡多恵子 どうでもええのや	萩原葉子	日本読書新聞 20日
74/06	書評	「植物祭」執着と無執着の間	佐伯彰一	中央公論
74/07		「地蔵和讃仕方咄」富岡多恵子	落合清彦	国文学 解釈と鑑賞
74/08	書評	「ひとが生きている間」共著 サロンにおける女子の対話		サンデー毎日 18日
74/08	書評	「冥途の家族」	松原新一	群像
74/09	書評	「ひとが生きている間」対談多田道太郎・富岡多恵子 草思社	大田克彦	ミュージック・マガジン
74/10	書評	「壺中庵異聞」	饗庭孝男・高橋たか子	文學界
74/10	書評	乾いたユーモア 富岡多恵子『冥途の家族』	田辺聖子	文芸展望
74/10		もの書く事情 富岡多恵子の場合	進藤純孝	新刊ニュース
74/10		大阪風饒舌文学		朝日新聞 11日
74/11		第13回「女流文学賞」決定発表「冥途の家族」		婦人公論
74/11		文壇告知版 富岡多恵子		週刊サンケイ 7日
74/12	インタビュー	作家訪問記 富岡多恵子		海
75/02		晴れた日にタエコと遊園地へ行った	河野典生	家庭画報
75/02	解説	「戦争・女・家」	進藤純孝	『現代の女流作家7』毎日新聞社
75/03		プライベートニュース		週刊朝日 14日
75/03	解説		佐伯彰一	富岡多恵子『植物祭』中公文庫
75/03	座談会	女流作家の新傾向	上田三四二・川村二郎・平岡篤頼	群像
75/04	書評	世間人の研究 富岡多恵子著『壺中庵異聞』	秋山駿	海
75/04		わが同窓生 富岡多恵子さん	岡田保造	青風 20日
75/06	書評	「動物の葬禮」	丸山健二・宮原昭夫	文學界
75/10		LEISUREペット		週刊新潮 16日
75/10	解説		三木卓	富岡多恵子『青春絶望音頭』角川文庫
76/03	書評	ドロドロした生活感覚の土壌で 富岡多恵子『動物の葬禮』	富士正晴	サンデー毎日 14日
76/03	書評	「動物の葬禮」文芸春秋		週刊読売 20日
76/04	書評	「動物の葬禮」しゃれたセンスの新しい浮世囃	黒	週刊朝日 9日
76/04	解説		多田道太郎	富岡多恵子『丘に向ってひととは並ぶ』中公文庫
76/05	書評	現実主義的現実嫌悪 富岡多恵子『動物の葬禮』	飯島耕一	海

年月	ジャンル	タイトル	筆者	出版社・雑誌
76/05	エッセイ	優秀のサイレン	西脇順三郎	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	エッセイ	富岡多恵子の詩	富士正晴	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	エッセイ	膝を叩いて合槌を	小島信夫	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	エッセイ	富岡流語りの魅力	佐伯彰一	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	エッセイ	彼女の作業	河野多恵子	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	エッセイ	才能というけ	田辺聖子	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	エッセイ	さみしい人	田中千禾夫	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	詩論	富岡多恵子の「歌の訣れ」	小野十三郎	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	詩論	発生の構造	長谷川龍生	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	詩論	興行きの問題	岩成達也	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	詩論	富岡多恵子さんの詩の肉声の思想というところまで考える	鈴木志郎康	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	詩論	言葉の肉体に幸あれ	岡田隆彦	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	詩論	富岡タエラレナイコ	飯島耕一	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	詩論	『女友達』の周辺	白石かずこ	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	詩論	富岡多恵子の方法	清水哲男	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	詩論	話題から主題へ	藤井貞和	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	詩論	富岡さんへの手紙	川崎洋	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	詩論	晴ときどき嵐	藤富保男	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	詩論	<呼吸語り> から <生き語り> へ	永坂田津子	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	詩論	プライベートからパーソナルへ	高良留美子	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	詩論	富岡多恵子・スタイン・etc.	金関寿夫	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	詩論	詩人である。あるいは詩を書くことの恥ずかしさについて	篠田正浩	現代詩手帖 臨時増刊
76/05		アンドロジナスな文体	外山滋比古	現代詩手帖 臨時増刊
76/05		美しく蒸溜された世界	畑山博	現代詩手帖 臨時増刊
76/05		「事実」への接近	松原新一	現代詩手帖 臨時増刊
76/05		造型への虚無	岡庭昇	現代詩手帖 臨時増刊
76/05		小説における「わたし」	水田宗子	現代詩手帖 臨時増刊
76/05		カワイソー狩りのアリス	扇田昭彦	現代詩手帖 臨時増刊
76/05		多恵子さんへ	東野芳明	現代詩手帖 臨時増刊
76/05		ネェちゃんとなぜか上がってしまう富岡さんってステキ！	三上寛	現代詩手帖 臨時増刊
76/05		桜の木の下に死人はいない	粟津潔	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	座談会	現実意識と語り口	天沢退二郎・大岡信・谷川俊太郎・三木卓	現代詩手帖 臨時増刊
76/05	写真	多恵子抄 付=撮影日記	荒木経惟	現代詩手帖 臨時増刊
76/05		富岡多恵子に	高松次郎	現代詩手帖 臨時増刊
76/05		富岡多恵子アルバム		現代詩手帖 臨時増刊
76/05	年譜	富岡多恵子年譜	編：八木忠栄	現代詩手帖 臨時増刊
76/05		富岡多恵子参考文献		
76/07		「植物祭」	栗原敦	国文学 解釈と教材の研究
76/07	解説		松原新一	富岡多恵子『冥途の家族』講談社文庫
76/07	年譜		八木忠栄	富岡多恵子『冥途の家族』講談社文庫
76/09		富岡多恵子「地蔵和讃仕方咄」のふく子	川崎キヌ子	国文学 解釈と鑑賞
76/12		富岡多恵子が異色新人歌手に		週刊女性 7日
76/12	グラビア	マイステージ 音のない音楽会		婦人公論 23・30日合併
77/01	グラビア	私の傑作 犬		婦人公論

年月	ジャンル	タイトル	筆者	出版社・雑誌
77/01	書評	「当世凡人伝」	森敦・川村二郎・田久保英夫	群像
77/02		レコード大賞心臓賞候補、歌手でデビュー	青木	週刊朝日 11日
77/03		デビューした二人の異色歌手、伊藤雄之介と富岡多恵子		週刊文春 10日
77/03		野坂サン・あとはまかせて「デビューリサイタル」を		週刊朝日 11日
77/03		レコード大賞心臓賞をめざす歌手タエコさん初舞台		週刊読売 26日
77/04		堂々の歌手デビュー		新評
77/04	グラフィ	ズームアップ'77 詩人、小説家、歌手富岡多恵子		婦人公論
77/05		歌手富岡多恵子誕生後日譚		新評
77/05	書評	「当世凡人伝」	風	週刊文春 19日
77/06	書評	<話体>の発想 富岡多恵子<当世凡人伝>	芹沢俊介	文學界
77/06	書評	「当世凡人伝」講談社	西	週刊読売 11日
77/07	書評	『当世凡人伝』富岡多恵子著	十返千鶴子	婦人公論
77/07	書評	コトバ遊びの達人 富岡多恵子「当世凡人伝」喜びと寂しさの表情描く 富岡多恵子著『当世凡人伝』	白石かずこ	海
77/08	書評	「当世凡人伝」講談社	松本道介	潮
77/08	書評	「当世凡人伝」講談社	田久保英夫	週刊ポスト 19日
77/08	書評	「当世凡人伝」講談社	饗庭孝男・高井有一・野間宏	文芸
77/11		富岡多恵子論の明るる日	天沢退二郎	『新選・現代詩文庫107 富岡多恵子』思潮社
78/01	解説		谷川俊太郎	富岡多恵子『ニホン・ニホン人』集英社文庫
78/02	解説		外山滋比古	富岡多恵子『回転木馬はとまらない』中公文庫
78/03	解説	人と文学	松原新一	『筑摩現代文学大系97』筑摩書房
78/03	月報	月報	多田道太郎	『筑摩現代文学大系97』筑摩書房
78/05		異形の少女 富岡多恵子論	田中美代子	新潮
78/06	書評	「雲」	小島信夫・磯田光一・河野多恵子	群像
78/07		富岡多恵子の「軽み」	川本三郎	海
78/08		<富岡多恵子論> <空>を撃つ文学	神谷忠孝	国文学 解釈と鑑賞
78/08	書評	「坂の上の間」	藤枝静男・秋山駿・黒井千次	群像
78/09	解説		田中美代子	富岡多恵子『壺中庵異聞』集英社文庫
78/10	グラフィ	21世紀をつくる日本のレディース・リーダー		女性自身 26日
78/11		富岡多恵子		国文学 解釈と教材の研究 臨時増刊
79/04		富岡多恵子 <事実>という<コトバ>	下山嬢子	国文学 解釈と鑑賞
79/04	解説		山本明	富岡多恵子『厭芸術浮世草紙』中公文庫
79/04	書評	「写真の時代」毎日新聞社	五木仁平	新評
79/05	書評	嗅ぎとろうとする日本の土 富岡多恵子著『近松浄瑠璃私考』	勝又浩	潮
79/05	書評	「写真の時代」		週刊ポスト 4日
79/05	書評	ほんの著者と「さまざまうた」文芸春秋		サンデー毎日 13日
79/06	書評	「近松浄瑠璃私考」筑摩書房	長尾一雄	季刊邦楽
79/06	書評	「さまざまうた、詩人と詩」文芸春秋社	鍵	週刊朝日 1日

年月	ジャンル	タイトル	筆者	出版社・雑誌
79/06	書評	語り思考でとらえられた人間と詩「さまざまなうた」「近松浄瑠璃私考」	長谷川龍生	文學界
79/06	書評	「芻狗」	藤枝静男・磯田光一・岡松和夫	群像
79/06	書評	「芻狗」	立原正秋・黒井千次	文學界
79/07	書評	「さまざまなうた、詩人と詩」文芸春秋社	野坂昭如	群像
79/08	書評	ウタと語りの濃密な世界 富岡多恵子『近松浄瑠璃私考』『さまざまなうた』	高橋英夫	海
79/10	書評	「結婚」	高橋英夫・大橋健三郎・宮内豊	群像
79/11		エッセイ	大岡信	『現代詩集(三) 日本の詩27』集英社
79/11	略伝		武田文章	『現代詩集(三) 日本の詩27』集英社
79/12	書評	「斑猫」河出書房新社		週刊朝日 21日
79/12	書評	母への愛憎の汎私小説 富岡多恵子「斑猫」	奥野健男	海
80/01	解説		飯島耕一	富岡多恵子『仕かけのある静物』中公文庫
80/01	書評	「斑猫」	大橋健三郎	群像
80/01	書評	「斑猫」	川村二郎・津島佑子・飯島耕一	文芸
80/03		「植物祭」のトモコ	平山城児	国文学 解釈と教材の研究 臨時増刊
80/08	解説		川村二郎	富岡多恵子『当世凡人伝』講談社文庫
80/08	年譜			富岡多恵子『当世凡人伝』講談社文庫
80/11	書評	ほんの著者と「三千世界に梅の花」		サンデー毎日 2日
80/12		架橋と解体	鈴城雅文	創
80/12	書評	聖なるピカレスク 富岡多恵子『三千世界に梅の花』『芻狗』	佐伯彰一	海
80/12		活力とその物語化 富岡多恵子と津島佑子	神谷忠孝	国文学 解釈と教材の研究
80/12	書評	「芻狗」」「三千世界に梅の花」	川西政明	すばる
80/12	書評	「芻狗」	伊藤比呂美	文學界
80/12	書評	「芻狗」	田久保英夫	群像
80/12	書評	「芻狗」	平岡篤頼・李恢成・立松和平	文芸
81/01	解説		糸井重里	富岡多恵子『女子供の反乱』中公文庫
81/01	書評	「少女たちの桜通り」読売新聞社		女性自身 29日
81/02		女性作家における「女」 富岡多恵子	下山嬢子	国文学 解釈と鑑賞
81/10	書評	「砂に風」文藝春秋		週刊文春
81/11	書評	ブックエンド『「英会話」私情』日本ブリタニカ	耕	週刊朝日 13日
81/12	書評	「砂に風」	磯田光一	群像
82/01	解説		八木忠栄	富岡多恵子『詩よ歌よ、さようなら』集英社文庫
82/01	書評	「砂時計のように」	佐伯彰一	海
82/01	書評	「砂に風」		海燕
82/02	書評	「砂時計のように」	黒井千次・大庭みな子・佐々木基一	文芸
82/02	書評	「砂時計のように」	菅野昭正	群像
82/03	書評	男と女の集積回路 呪詛について 富岡多恵子『砂時計のように』	青木雨彦	潮
82/07		女の現代詩 吉原幸子、富岡多恵子、石垣りんの詩から	沢孝子	現代俳句

年月	ジャンル	タイトル	筆者	出版社・雑誌
82/08	解説		鴨居羊子	富岡多恵子『兔のさかだち』中公文庫
82/09	書評	「遠い空」中央公論	金閔寿夫	中央公論
82/10	書評	「遠い空」	駒田信二	群像
82/10	書評	「遠い空」	川村二郎	文學界
83/01		序文	山本太郎	『ポケット 日本の名詩』平凡社
83/03	書評	『室生犀星』	磯村英樹	新潮
83/05	書評	富岡多恵子『室生犀星』筑摩書房	奥野健男	海
83/06	書評	「波うつ土地」	大橋健三郎・高井有一・菅野昭正	群像
83/06	書評	「松拍」	饗庭孝男	文學界
83/09	書評	富岡多恵子『波うつ土地』講談社	井坂洋子	海
83/09	解説		多田道太郎	富岡多恵子『「英会話」私情』集英社文庫
83/10	書評	「松拍」	川西政明	すばる
83/10	書評	「波うつ土地」		海燕
83/11		崩壊の受苦 あるいは『波うつ土地』	加藤典洋	群像
83/12	解説		横尾忠則	富岡多恵子『ボーイフレンド物語』講談社文庫
84/01	解説		稲垣達郎	富岡多恵子『さまざまうた』文春文庫
84/03		「冥途の家族」のふく子とナホ子	与那覇恵子	国文学 解釈と教材の研究
84/04		富岡多恵子論	与那覇恵子	現点3号
84/04	解説		磯田光一	富岡多恵子『砂に風』文春文庫
84/09	書評	「水獣」	菅野昭正・岡松和夫・立松和平	群像
84/09	書評	「水獣」	川西政明	すばる
84/12	書評	「噴出する水」	津島佑子・三木卓・磯田光一	群像
85/03	解説		上野千鶴子	富岡多恵子『砂時計のように』中公文庫
85/07		性のニヒリズム 富岡多恵子論	千石英世	群像
85/09		富岡多恵子	荻久保泰幸	国文学 解釈と鑑賞
85/12	解説		津島佑子	富岡多恵子『遠い空』中公文庫
86/02		シナリオ時評 44 鐘の権三(富岡多恵子)	八住利男	シナリオ
86/02		「鐘の権三」作品評 艶やかな情痴の悲劇	佐藤忠男	シナリオ
86/03	参考文献	参考文献 富岡多恵子	与那覇恵子	『現代女流文学論』審美社
86/05		富岡多恵子「波うつ土地」裏返された視座	柳沢孝子	国文学 解釈と教材の研究
86/08	書評	今週の本 「ひとは魔術師」 役者はフツの人であってはならない、フツの人であるはずがないのだ!!	矢牧健太郎	アサヒ芸能 28日
86/10	解説		安田富貴子	富岡多恵子『富岡多恵子の好色五人女 わたしの古典16』集英社
86/11		富岡多恵子と「動物」願望	上野千鶴子	『女という快楽』勁草書房
86/11	インタビュー	時代の気分を語る 若者たちの大神(Gami gami) 4 富岡多恵子	筑紫哲也	朝日ジャーナル 28日
87/02		空隙としての異性 富岡多恵子論	松下千里	群像
87/08	書評	富岡多恵子「白光」	後藤明生・秋山駿・松本健一	群像
87/08		家族幻想	三浦雅士	海燕
87/11	解説		ねじめ正一	富岡多恵子『うき世かるた』集英社文庫

年月	ジャンル	タイトル	筆者	出版社・雑誌
87/12	書評	西鶴のかたり 近代文学への新たな視点	田中優子	太陽
88/01	書評	いまの積あげ方 『白光』	大江健三郎	波
88/02	解説	富岡多恵子・人と作品	竹田青嗣	『昭和文学全集29巻』小学館
88/02	年譜	年譜	八木忠栄	『昭和文学全集29巻』小学館
88/03	書評	覆された男と女の神話 『白光』富岡多恵子	海老坂武	新潮
88/04	書評	共同体と共生 「白光」富岡多恵子(新潮社)	高橋英夫	海燕
88/04	書評	「キッチン」吉本バナナ(福武書店)	網	すばる
88/04	書評	『白光』富岡多恵子	池内紀・奥本大三郎・川本三郎	文學界
88/04	書評	「白光」新潮社		クロワッサン 10日
88/05	書評	『白光』新潮社		婦人公論
88/06	書評	「横たわる川」富岡多恵子	田久保英夫；金井美恵子；加藤典洋	群像
88/06	書評	「白光」(富岡多恵子) あらゆる理想主義へのリアルな批判 新潮社		週刊ポスト 17日
88/07	解説	壁のまえの苦笑 『波うつ土地』再訪	加藤典洋	富岡多恵子『波うつ土地・芻狗』講談社文芸文庫
88/07		作家案内 富岡多恵子	与那覇恵子・文芸文庫の会	富岡多恵子『波うつ土地・芻狗』講談社文芸文庫
88/07	著書目録	著書目録 富岡多恵子	与那覇恵子	
88/10		富岡多恵子 「冥途の家族」のナホ子	尾形明子	『現代文学の女たち』ドメス出版
88/10		富岡多恵子	杉浦静	原子朗編『別冊国文学 近代詩現代詩必携』學燈社
88/10	解説		松井今朝子	富岡多恵子『近松浄瑠璃私考』ちくま文庫
89/04		富岡多恵子の引き継ぐもの	市橋秀夫	新日本文学
89/05		母子姦ユートピアの明日 富岡多恵子『白光』をめぐって	荒井とみよ	新潮
89/06	書評	威勢のいい啖呵と、テレビっ子世代の澁澁さ 「こういう時代の小説」「文学がこんなにわかっていいかしら」筑摩書店	秋山駿	週刊朝日 2日
89/07	書評	文学の風俗化について 富岡多恵子『こういう時代の小説』	竹田青嗣	群像
89/07	書評	『文学がこんなにわかっていいかしら』高橋源一郎 『こういう時代の小説』富岡多恵子	豊	すばる
89/07	書評	「柔らかい個人主義」のウソ 『こういう時代の小説』筑摩書房	高橋敏夫	サンデー毎日 2日
89/07		ここで突然愛について 富岡多恵子著「遠い空」より		女性セブン 13日
89/09	解説	“文学”を撃つ十本の矢	秋山駿	富岡多恵子『表現の風景』講談社文芸文庫
89/09		作家案内 富岡多恵子	木谷喜美枝・文芸文庫の会	富岡多恵子『表現の風景』講談社文芸文庫
89/09		著書目録 富岡多恵子	与那覇恵子	富岡多恵子『現の風景』講談社文芸文庫
90/01	解説		久保田淳	富岡多恵子『とはずがたり』講談社
90/02	書評	『とりかこむ液体』富岡多恵子	川村湊	文學界
90/02	書評	過去という時制の強度 『とりかこむ液体』富岡多恵子	稲川方人	新潮
90/02	書評	『とりかこむ液体』富岡多恵子房	杉	すばる

年月	ジャンル	タイトル	筆者	出版社・雑誌
90/05	書評	ドラマの終りの地点から 富岡多恵子『逆髪』	水田宗子	群像
90/06		方法をめぐって < 実例 > 富岡多恵子	与那覇恵子	国文学 解釈と教材の研究
90/06	書評	『逆髪』富岡多恵子	川村湊	文學界
90/06	書評	< ほんとう > の行方 『ハイ・イメージ論』 吉本隆明 『逆髪』富岡多恵子	竹田青嗣	海燕
90/06	書評	『逆髪』講談社		すばる
90/06	書評	『逆髪』講談社 家族という「取り留め」なくかつ、「血は争えない」人の世	島弘之	週刊現代 2日
90/07	書評	カタリの本意とシャベクリの不本意 『逆髪』富岡多恵子	井口時男	新潮
90/10		コトダマキ - パ - 調書 富岡多恵子の場合	室井光広	群像
90/11		富岡多恵子	田中励儀	『現代作家便覧』學燈社
90/11		感受性の冒険 女性作家の男性像について	竹田青嗣	群像
90/12		迷宮のなかをヒトは歩く 富岡多恵子『逆髪』をめぐって	菅野昭正	群像
91/02	書評	言語風土としての大阪 富岡多恵子・佐々木幹郎 『「かたり」の地形』	野口武彦	新潮
91/03	グラフィ	作家のindex 富岡多恵子	撮影：大倉舜二	すばる
91/03	書評	定めなき世はなかなか 『逆髪』講談社	佐々木幹郎	東京人
91/03		『フェミニズムの彼方 女性表現の深層』	水田宗子	講談社
91/05		『波うつ土地』揺れているものたちの形	荒井とみよ	水田宗子編『ニュー・フェミニズム・レビュー 第2号 女と表現』学陽書房
91/07		身体の内部を流れる言葉の世界 富岡多恵子 初期小説を中心に	古谷鏡子	新日本文学
91/08	解説		奥野卓司	富岡多恵子『写真の時代 筑摩叢書355』筑摩書房
91/11	往復書簡	富岡多恵子さんへ 事実と事実を重ねていくと... (ペリスコプ)	松本健一	群像
91/11		家族という海草	清水真砂子	『4家族のフォークロア 変貌する家族』岩波書店
91/12	書評	『水上庭園』富岡多恵子	川村湊	文學界
92/01	書評	富岡多恵子『水上庭園』岩波書店	青野聡	すばる
92/03	書評	富岡多恵子『水上庭園』岩波書店	佐々木幹郎	中央公論
92/03		なぜ男は女が怖いというのか! 『男流文学論』著者	八角聡仁	朝日ジャーナル 20日
92/03	書評・インタビュー	上野千鶴子・小倉千加子・富岡多恵子『男流文学論』筑摩書房		クロワッサン 25日
92/04		おんなの詩『結婚してください』富岡多恵子	伊藤比呂美	女性セブン 9日
92/05	書評	上野千鶴子・小倉千加子・富岡多恵子『男流文学論』筑摩書房	郷原宏	家庭画報
92/06	書評	フェミニスト達の評論の評論 上野千鶴子・小倉千加子・富岡多恵子『男流文学論』筑摩書房	鈴木裕子	週刊ポスト 12日
92/07		動物の葬礼と参列者 富岡多恵子における女性のナラティブについて	水田宗子	城西国際大学人文学部紀要
92/09	解説		林京平	富岡多恵子『近松名作集 少年少女古典文学館18』講談社
92/10	書評	『雪の仏の物語』富岡多恵子	川村湊	文學界
92/11		富岡多恵子 「波うつ土地」にみられる浮遊性について マルグリット・デュラスの文学との比較から	橋本 征子	国文学 解釈と教材の研究
93/06	解説		佐々木幹郎	富岡多恵子『当世凡人伝』講談社文芸文庫
93/06		作家案内	水田宗子	富岡多恵子『当世凡人伝』講談社文芸文庫



年月	ジャンル	タイトル	筆者	出版社・雑誌
93/06	著書目録	著書目録	与那覇恵子	富岡多恵子『当世凡人伝』講談社文芸文庫
93/07		人間の詩100選 富岡多恵子「夜」感情のアラベスク	三木卓	週刊ポスト 16日
93/12	書評	性的現実を擬装する作家の闇にまで踏み込む 富岡多恵子『中勘助の恋』創元社	小倉千加子	週刊朝日 10日
94/01	書評	タイトルに込められた正常感覚 富岡多恵子「矩形感覚」朝日新聞社		週刊読売 23日
94/02		解けはじめた中勘助の謎 富岡多恵子『中勘助の恋』	岩阪恵子	新潮
94/02	書評	富岡多恵子『中勘助の恋』	山崎行太郎	すばる
94/02	書評	青白いリングの伝説 富岡多恵子『中勘助の恋』	西川祐子	群像
94/02	書評	高潔な作家の謎の私生活に興奮を覚える 富岡多恵子『中勘助の恋』創元社	荒川洋治	アサヒ芸能 3日
94/03	書評	富岡多恵子「触れる袖」	川村二郎・大庭みな子・江藤淳	群像
94/04	インタビュー	著者インタビュー 『中勘助の恋』（読売文学賞受賞）を書いた富岡多恵子さん	尾崎真理子	THIS IS 読売
94/06	書評	幼女への倒錯的愛を糊塗する日記体随筆 富岡多恵子『中勘助の恋』創元社	野崎正幸	鳩よ！
94/10		富岡多恵子		村松定孝・渡辺澄子編『現代女性文学辞典』東京堂出版
95/02	解説	解説 富岡多恵子の土地	黒川創	富岡多恵子『富岡多恵子の発言2 詩よ歌よ』岩波書店
95/03	書評	女の方がずっとワイセツである 富岡多恵子「性という情緒 富岡多恵子の発言1」岩波書店		週刊読売 12日
95/04	解説	解説 大阪まで	黒川創	富岡多恵子『富岡多恵子の発言4 闇をやぶる声』岩波書店
95/05	解説	解説 スタインの顔	黒川創	富岡多恵子『富岡多恵子の発言5 物語からどこへ』岩波書店
95/05	年譜	富岡多恵子の仕事		富岡多恵子『富岡多恵子の発言5 物語からどこへ』岩波書店
95/05		丘の上の“戦後” 富岡多恵子子をめぐって	小原真紀子	群像
95/09	解説	家族という地獄	川村湊	富岡多恵子『冥途の家族』講談社文芸文庫
95/09	年譜	富岡多恵子 年譜	八木忠栄	富岡多恵子『冥途の家族』講談社文芸文庫
95/09	著書目録	著書目録 富岡多恵子	与那覇恵子	富岡多恵子『冥途の家族』講談社文芸文庫
96/05	解説	語注・解説	安田富貴子	富岡多恵子『富岡多恵子の好色五人女 わたしの古典16』集英社文庫
96/05		鑑賞	荒川洋治	富岡多恵子『富岡多恵子の好色五人女 わたしの古典16』集英社文庫
96/07		観念性と批評性 倉橋由美子と富岡多恵子	高畠寛	樹林 夏号
97/09		姉は逆髪、弟は 富岡多恵子の世界	高桑法子	月刊国語教育
97/09	解説		齋藤美奈子	富岡多恵子・上野千鶴子・小倉千加子『男流文学論』ちくま文庫
97/09	書評	大阪センチメンタルジャーニー	岡崎武志	サンデー毎日 28日
97/09	書評	ひべるにあ島紀行	川村二郎	読売新聞 21日
97/10	書評	大阪は「かけあい」の増場である 富岡多恵子『大阪センチメンタルジャ - ニ - 』	高橋敏夫	すばる
97/10	書評	ひべるにあ島紀行	富岡幸一郎	日本経済新聞 26日
97/10	書評	ひべるにあ島紀行	鶴岡真弓	東京新聞 26日

年月	ジャンル	タイトル	筆者	出版社・雑誌
97/10	書評	ひべるにあ島紀行	池内紀	週刊朝日 24日
97/11		第50回野間文芸賞に決まった作家富岡多恵子さん	加藤修	朝日新聞 朝刊 21日
97/11	書評	同じことなれども…… 富岡多恵子『ひべるにあ島紀行』	室井光広	群像
97/?	書評	引用・幻想・語りの交響 富岡多恵子著『ひべるにあ島紀行』	中村三春	週刊読書人
98/01		第50回野間文芸賞発表 田久保英夫『木霊集』富岡多恵子『ひべるにあ島紀行』		群像
98/05	解説		久保田淳	富岡多恵子『「とはずがたり」を旅しよう 古典を歩く9』講談社文庫
98/06		男性／女性	新井豊美	現代詩手帖
98/10		詩人は遠くて	野坂昭如	富岡多恵子『富岡多恵子集2』筑摩書房 月報1
98/10		詩と小説と批評	三浦雅士	富岡多恵子『富岡多恵子集2』筑摩書房 月報1
98/11		風景の憂鬱	多田道太郎	富岡多恵子『富岡多恵子集5』筑摩書房 月報2
98/11		明るい荒野	町田康	富岡多恵子『富岡多恵子集5』筑摩書房 月報2
98/11		富岡多恵子「白光」	西川祐子	『借家と持ち家の文学史「私」のつつわの物語』三省堂
98/12		文体と映体 『わたし』の富岡多恵子体験	篠田正浩	富岡多恵子『富岡多恵子集7』筑摩書房 月報3
98/12		劇作家・富岡多恵子の仕事	扇田昭彦	富岡多恵子『富岡多恵子集7』筑摩書房 月報3
99/01		こわいユーモア	川村二郎	富岡多恵子『富岡多恵子集3』筑摩書房 月報4
99/01		声の出現	中沢新一	富岡多恵子『富岡多恵子集3』筑摩書房 月報4
99/02		ギリシャ的な悔冥	加藤典洋	富岡多恵子『富岡多恵子集8』筑摩書房 月報5
99/02		桜通りの黒塚の家	小倉千加子	富岡多恵子『富岡多恵子集8』筑摩書房 月報5
99/02		富岡多恵子	宮内淳子	国文学 解釈と研究 臨時増刊
99/03		叱られて	高橋睦郎	富岡多恵子『富岡多恵子集4』筑摩書房 月報6
99/03		舞台のある小説	多和田葉子	富岡多恵子『富岡多恵子集4』筑摩書房 月報6
99/03	年譜	年譜	小平麻衣子	『三枝和子 林京子 富岡多恵子 女性作家シリーズ15』角川書店
99/04		多恵子抄	荒木経惟	富岡多恵子『富岡多恵子集1』筑摩書房 月報7
99/04		「立派な女の子」の力	平田俊子	富岡多恵子『富岡多恵子集1』筑摩書房 月報7
99/05		艶やかな離れ技	三枝和子	富岡多恵子『富岡多恵子集9』筑摩書房 月報8
99/05		犀星を論じること	佐々木幹郎	富岡多恵子『富岡多恵子集9』筑摩書房 月報8
99/06		「アイルランド」から「ひべるにあ」へ	鶴岡真弓	富岡多恵子『富岡多恵子集6』筑摩書房 月報9
99/06		反逆する異形頭	笠野頼子	富岡多恵子『富岡多恵子集6』筑摩書房 月報9
99/07		火の仲間	荒川洋治	富岡多恵子『富岡多恵子集10』筑摩書房 月報10
99/07		突然のご下問	久間十義	富岡多恵子『富岡多恵子集10』筑摩書房 月報10
99/07	著書目録	著書目録	八木忠栄	富岡多恵子『富岡多恵子集10』筑摩書房